



はたららくネット



仙台市では、より多くの方々に障害のある方の就労について理解を深めていただけるように、平成21年度から、積極的に障害者雇用に取り組んでいる事業者を「障害者雇用貢献事業者」として表彰を行うとともに、その取り組み事例を紹介しております。令和3年度においては、株式会社サンマリ、株式会社仙台銀行、株式会社つばめマネジメント、株式会社デジタルハーツプラス仙台オフィス、東北電力フレンドリー・パートナーズ株式会社、楽天ソシオビジネス株式会社エリア事業部仙台エリアチームの6社が表彰を受けました。

前々回から順次、各社の取り組みを紹介しております。今回は、楽天ソシオビジネス株式会社エリア事業部仙台エリアチームと株式会社仙台銀行の2社の取り組みをご紹介します。

●楽天ソシオビジネス株式会社エリア事業部仙台エリアチーム (仙台市宮城野区)



インターネット関連サービスなどを行っている楽天グループ株式会社の特例子会社です。東京オフィスのほか、「エリア事業部」として、仙台と大阪にもオフィスを構え、令和4年10月現在、障害のある方を212名雇用しています。

仙台ではそのうちの11名が働いており、レビューの監視や各種データの入力、人事関係の業務の補佐などの仕事をしています。

大きな特徴は、在宅勤務の社員が多いことです。仙台オフィスでは現在、7名が在宅勤務をしています。同社は様々なIT関係の技術やツールを利用して、業務を行ったり、コミュニケーションをとったりしています。それにより、障害特性のため、通勤が困難で在宅勤務をしている社員も、出社している社員と変わりなく業務を遂行することができているとのこと。

IT関係の技術やツールの具体的な利用例としては、例えば、オンラインでの会議やファイルの共有を行うことができるツールを利用して、社員の業務の進捗状況を把握したり、報告を受けたりしています。オンラインでの通話、チャットの機能なども、業務に利用しています。

朝礼やミーティングも、オンラインで行っています。それにより、出勤しているか、在宅勤務かに関わらず、コミュニケーションをとることができます。業務を担当する社員同士が連絡を取り合う手段としても、有効に活用されています。上司と部下との面談である「1on1ミーティング」は、対面に加えて、オンラインでも行い、通院の有無や頻度を確認したり、熱中症への注意喚起といった体調面への配慮事項を伝えたりしています。



仙台オフィス

設立：平成19年12月5日
代表者：代表取締役社長 三瓶 翼
事業内容：楽天市場をはじめとするグループ内
アウトソーシング業務及び自社運営事業
雇用状況：身体障害者9名、精神障害者2名
※雇用状況は仙台オフィス、令和4年10月現在

「1on1ミーティング」の主な目的は、業務に関する困りごとや進捗状況の確認で、他の社員がいるところでは共有できないことや相談事を社員に話してもらうために行っています。ただ、雑談も交えるので、社員が気持ちをリフレッシュする良い機会になっているとのこと。

同社は、在宅勤務の社員を含め、全社員にとって重要であるとして、情報漏洩を防ぐための「情報セキュリティ教育」に力を入れています。新入社員は、社内の情報通信網を利用して、「情報セキュリティ研修」を受け、パソコンやソフトウェアの管理方法、機密情報の取り扱い方などを学びます。「エリア事業部」では、四半期ごとに独自のテストも実施し、意識を高めています。

業務管理の体制としては、社員を小さなグループに分け、それぞれのグループに管理者を置くことで、きめ細かい社員の状況や業務の管理を行っています。

オンラインで行う「エリア朝礼」も、ユニークな取り組みです。エリア事業部の社員のコミュニケーションを活発にするのが主な目的で、仙台、大阪の各オフィスが参加します。順番に行う5分間スピーチでは、スピーチを行う社員は、自分で決めたテーマに沿って資料を作成してスピーチを行います。それぞれの社員の人柄を知る良い機会になっているといいます。参加者をランダムに少人数のグループに分け、グループごとに与えられたテーマに沿った会話を楽しむ試みも行っています。

楽天グループの障害者雇用率は令和4年6月時点で、2.41%（グループ会社適用）です。同社は、楽天グループの特例子会社として、グループ全体の雇用者数の増加、法定雇用率の引き上げなどを考慮し、今後も積極的に障害者雇用を推進していくとのこと。

令和2年6月から働いている方に、お話を聞きました。



諦めずに頑張っひわたくやて 日渡 琢矢さん



約2週間の職場実習を経て、「ここだったら、無理しないで働ける」と思い、就職しました。

グループ会社が配信するメールマガジンの内容のチェックやデータ入力の仕事をしています。

これまでの勤務先では、業務はほぼ全て対面だったため、最初はオンラインでの会議やチャットといったコミュニケーション方法に戸惑いました。考えがうまく伝わらなかったり、言葉が出てこなかったりしましたが、だいぶ慣れました。

上司や周囲の方々が辛抱強く話を聞いてくれて、ありがたいです。また、社内に定着支援の専門の部署があり、2週間に1回程度、担当者と面談して、仕事や生活に関することを相談したり、悩みを打ち明けたりしています。健康状態も気にかけていただいております、手厚い支援を受けています。

以前の勤務先では、障害者雇用枠での採用であっても、障害のある人は職場で自分ひとりしかおらず、なかなか理解が得られませんでした。特例子会社に入ると、お互いに配慮し合える環境なので心強いです。

また、前職は補助的な業務や雑務が多く、物足りない感じがありましたが、今は能力に合った仕事をさせてもらい、充実した日々を送っています。

目標は、長く働くことです。長く働きながら正社員登用を目指していきたいです。働きたい障害のある方には、「どのような障害があっても、できる仕事はあります。諦めずに頑張ってください」と伝えたいです。



株式会社仙台銀行 (仙台市青葉区)



仙台銀行本店ビル

設立：昭和26年5月25日

代表者：取締役頭取 鈴木 隆

事業内容：銀行業

雇用状況：身体障害者 14名

精神障害者 4名

(令和4年10月現在)

宮城県内に、本支店を置く地方銀行です。昭和26年の創業以来、地域経済の安定と活性化のため、お客様とともに歩み、昨年、創業70周年を迎えました。

「人で勝負する銀行」という経営ビジョンのもと、職員を大事に育て、学歴や性別に関係なく、やる気と能力がある職員には活躍の場を提供するという企業風土があります。そのようななか、ダイバーシティ推進の一環として、障害者の雇用促進と活躍推進に取り組んできました。

現在、18名の障害のある職員が、障害の程度、業務に関する知識、経験などに応じて、営業、システム、事務補助といった多様な業務に携わっています。

同行は以前から、宮城労働局などが主催する合同面接会に参加し、障害のある方を積極的に採用してきました。しかし、採用した職員の勤務定着に課題がありました。

そこで、障害のある職員が働きやすい職場環境の整備について検討し、障害のある職員に合った業務を抽出して、平成30年3月に、本店内に障害者就労の専門チームを設置しました。それぞれに配慮が必要な点を詳しく聞き取り、業務とのミスマッチがないようにしています。また、経験豊富なシニア職員1名を指導係として配置しています。

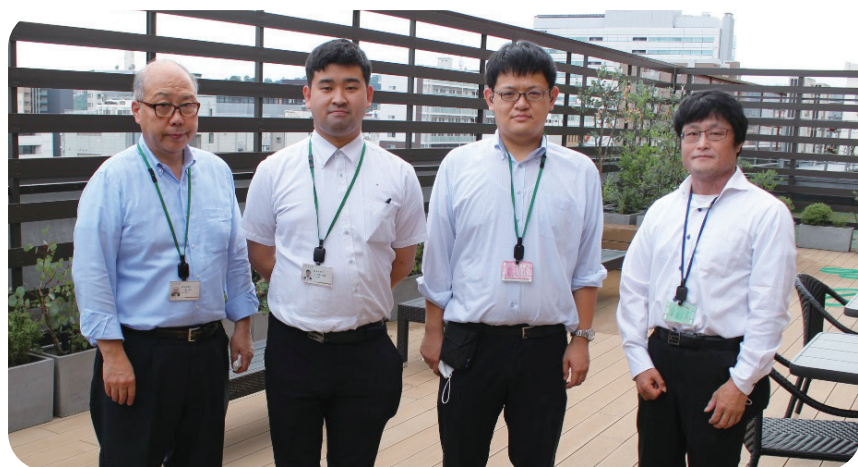
専門チームには現在、4名の障害のある職員がおり、帳票の管理や店舗外のATMの清掃、書庫の整備などに当たっています。また、創業70周年記念事業の一環として、役職員が懇親を深めるために、昨年4月に本店10階に設置された「トークサロン」の清掃や管理、「グリーンテラス」(屋上バルコニー)にある植物の水やりや剪定も行っています。

同行は、専門チームに限らず、障害のある職員には、短時間や週4日の勤務など、柔軟な働き方を認めています。希望者が支援機関と定期的な面談を行えるよう、配慮もしています。障害のある職員の勤務定着には、一緒に

働く職員の理解が重要であるとして、就労移行支援事業所から講師を招き、障害特性や障害者と働くためのポイントについて学ぶ勉強会も開きました。

そのような取り組みから、理解が深まり、専門チーム以外の部署でも、障害のある職員の勤務定着が進みました。障害のある職員のなかには、キャリア形成に意欲を持ち、業務に関連した資格試験に挑戦し、上位の職を目指す職員も出てきました。

同行は、企業が果たすべき社会的責任と持続可能な開発目標の観点からも、障害のある職員の雇用と勤務定着に取り組まなければならないとしています。障害のある職員が生き活きと働くことは、企業価値の向上や多様性のある組織づくりなど、多くの効果があると考えています。引き続き障害のある方の雇用や活躍推進に積極的に取り組むことで、地域社会に貢献することを目指します。



専門チームのメンバー3名と指導に当たるシニア職員(左端)
場所: 仙台銀行本店10階グリーンテラス(屋上バルコニー)





専門チームのメンバーに、お話を聞きました。



自分にどんな仕事が合うかを見つける やなみ かずま 矢浪 和真さん

平成30年3月に入社しました。通っていた就労移行支援事業所の支援者と一緒に参加した合同面接会が、就職のきっかけです。業務内容が思っていた仕事のイメージと近かったのが、決め手でした。今は、現金を入れる封筒など用品の管理や発送、ATMの清掃などを担当しています。

最初は上司の指示に沿って行動するといった会社員としての働き方に戸惑いましたが、もう慣れました。

何より嬉しいのは、お給料をもらえることです。歓送迎会などに参加して職場の人とお酒を飲めるのも、社会人ならではの楽しみです。コロナ禍で、最近はそのような機会がなくなり、残念です。

目標は、ミスなく、働き続けることです。障害のある方については、働きながら、どんな仕事が合うか見つけることが大事だと思います。事務関連の仕事は、地味な業務に安定的に取り組むことが大切です。それは自分のモットーでもあります。



銀行員として地域の発展に貢献したい いしかわ つよし 石川 毅さん

前の勤務先を退職した後、就労移行支援事業所に1年半通いました。合同面接会に参加したところ、ご縁があり、令和元年12月に入社しました。

通帳、預金証書といった用品の管理や社内メール便の仕分けを担当しています。業務に関連した資格を取得し、今年5月に職位が上がりました。

楽しみは、「グリーンテラス」の清掃のときに、ハーブ類やオリーブ類の剪定をすることです。

最初は銀行で使われる専門用語が難しく、苦労しました。分からないことは他の職員に聞いたり、メモをとって復習したりするようにしています。

最終的な目標は、正職員になり、銀行員として地域の発展に貢献することです。

これから働きたい方には、友達でも家族でも誰でもいいので、まずは相談することを勧めたいです。課題があるときは、インターネットとかSNSではなく、対面でコミュニケーションをとって解決する方がいいのではと感じています。



発行：仙台市障害者就労支援センター「はたらポート仙台」

(指定管理者：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会)

住所：仙台市泉区泉中央2丁目1-1 泉区役所東庁舎5階

電話：022-772-5517 FAX：022-772-5519

Mail：info@sendai-wsc.jp HP：https://www.sendai-wsc.jp

